

# ARTA



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI



## 「苦境の中で見せた片鱗」

2018 ARTA DIGITAL Rd.1 OKAYAMA

A GLIMPSE OF NEW ERA

**AUTOBACS**  **AUTOBACS**

 **AUTOBACS**  **AUTOBACS**

ARTA 62

**AUTOBACS**  **AUTOBACS**

 **AUTOBACS**  **AUTOBACS**



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



みぞれ混じりの冷たい雨が、いつの間にか晴天に変わっていた。  
2018年のスーパーGT開幕を歓迎するかのように、岡山の空からは  
2番グリッドに就いた8号車 ARTA NSX-GT に眩しい光が降り注いだ。  
しかしそれは同時に、ARTAにとってはウェットコンディションで  
伊沢拓也が得た2番グリッドが全く意味の異なるものになることでも  
あった。コンディションが変わればマシンとタイヤのマッチング  
は大きく変わってしまう。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



ARTA

HONDA Panasonic  
**AUTOBACS**  
**ARTA**

MOBIL 1  
BRIDGESTONE



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**

コクピットに乗り込んだ野尻智紀には、少しばかりの気負いもあったのかも知れない。グリーンシグナルが灯り GT500 クラスのマシンたちを従えてフロントロウから加速していった野尻だが、ポールポジションのマシンがコントロールライン手前で一瞬スピードが鈍り、これを追い抜かないようスロットルを戻さなければならなかった野尻は後続車に飲み込まれてしまった。

それに加えてタイヤの温まりも遅く、なんと1周目で10位までポジションを落としてしまった。



だが8号車の本来のペースが遅いわけではなかった。レースエンジニアの星学文は野尻を盛り立てるように無線で伝えた。  
星「野尻、レースは長いからね。1個1個ポジションを上げていこう」  
野尻「はい」



じわじわとポジションを上げていくが、狭く曲がりくねった岡山では速くても抜くのは容易ではない。  
戦略に活路を見出すしかなかった。

星「今タイヤ無交換を考えてるんだけど、どう思う？」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA

野尻「キツイと思うけど……」

星「タイムを見る限りでは急激に落ちてはいないから、動きだけが気になるなら無交換の方が取り分があるかなと思う」

野尻「フロントが結構アンダーなんだよね」

星「トップとの差が18~19秒でキープできているから、無交換でいければ結構前に行けるんだよ。良いタイムだよ、そのままキープしよう」

野尻「アトウッドとかではアンダーが強いけど、それ以外ではオーバーもあるよ」

星「急激にタレてる感じはない？」

野尻「急激に落ちてはないんだけど。ごめん、23号車に抜かれた」

星「了解、今100号車が入って無交換。うちも無交換でいくよ」

野尻「伊沢さんに、オーバーステアだって伝えて」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



他車のピットストップを待ち、5番手までポジションを上げたところで39周目にピットイン。  
ここでARTAはタイヤ無交換作戦を選んだ。  
いや、本来の速さを結果に繋げるには、それしか選択肢は残されていなかったのだ。  
アグレッシブな攻めの戦略で伊沢にバトンを渡すことになった。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**





AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**

一方、GT300 クラスを戦う 55 号車 ARTA BMW M6 GT3 は、大柄な車体だけにこのツイスティな岡山は決して得意ではない。そこに土曜の雨が影響してセットアップが煮詰めきれないままの予選・決勝だった。

8 番グリッドからスタートした高木真一は、慎重なドライビングを心がけていた。思わぬところでの取りこぼしでチャンピオン争いから脱落した去年の反省を生かし、今年は目の前の結果よりもチャンピオン争いに照準を合わせているからだ。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**

「8番手からのスタートでしたが、あの位置は強敵が沢山いたので今年は落ち着いてクラッシュしないように走ることを心がけました。この混戦だったのでリスクを負わなければならないとも思いましたが、何とか安全に抜いてレースを展開していくことができましたね」

混戦の中で走る高木に、エグゼクティブアドバイザーの土屋圭市が指示を送った。

土屋「そんなにトップからは離されていないから、タイヤを大事に使ってね」

高木「は〜い」

土屋「ペースはトップより速いよ、29秒代後半だから！」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



実質5番手を走行していた高木は、45周目にピットインしてショー  
ンにステアリングを譲った。7番手でコースに復帰したショー  
ンは54周目には1台を抜いて6位に浮上しさらにペースを上げて5位の  
マシンに追い付いていった。

しかし、5位のマシンをオーバーテイクするほどの速さはなく、6  
位でフィニッシュするのが精一杯だった。

「レースラップは非常に良かったし、今回ボク達のパフォーマンスを  
出し切れたのではないかと考えています。

次の富士に向けて良いレースが出来たと思います」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



Pos	Clas	No.	Resitme	Sector1	Sector2	Time
1		5	1'33"277	25"144	44"115	32"042
2		25	1'33"905	22"265	43"920	32"196
		6	1'34"038	23"758	43"828	32"234
		7	1'34"137	22"927	47"346	32"211
		63	1'34"286	22"947	46"475	32"204
		16	1'34"356	23"934	48"292	32"420
		55	1'34"410	22"510	47"039	32"446
		98	1'34"544	23"382	46"583	32"367
		36	1'34"610	22"203	43"752	32"596
		39	1'34"644	23"192	42"594	32"354
			8:43:43		0:00	
			1'35"811	22"904	42"767	33"488
			1'35"896	22"205	41"042	33"047
			1'35"173	23"996	45"170	33"126
			1'35"172	23"261	45"764	33"209
			1'35"09	23"067	45"797	33"156
			1'35"342	22"486	41"010	33"138
				29"485	43"263	36"393

指定ゼッケンは車検場へ  
16, #25, #63

ARTA



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA

一方、ドライバーチェンジを終えて6番手でコースに戻った伊沢は、47周目に5位にポジションを上げた。テストからロングランのペースには手応えがあっただけに、最後まで無交換で走り切る戦略も無謀ではない。

星「ポジション5、良いペースだよ。頑張りましょう」

伊沢「了解」

星「前の1号車とのギャップは8.6秒。同じ無交換(で2位走行)の100号車は22秒後半で走ってる」

伊沢「了解。後ろは何号車？」

星「後ろは19号車で1.2秒差です」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



しかし 70 周を過ぎたあたりからタイヤのグリップ低下が進み、伊沢は必死にマシンをコントロールしなんとかタイヤをマネジメントしようとするがペースの低下は如何ともしがたかった。急に暑くなったコンディションが、タイヤへの負荷を大きくしたのかもしれない。

星「残り 11 周、後ろは 3 号車、38 号車も来てます」

伊沢「頑張ってるよ！ これでも 22 秒台とかで走るの？」

星「100 号車も遅くなってるけど、さっきは 23 秒台で走ってた」

伊沢「ああ、ごめん、また抜かれた」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



最後の最後に抜かれ、入賞圏からこぼれ落ちて 11 位。

ARTA 復帰戦を飾ることができなかった伊沢は悔しそうに言った。

星「チェッカーです、お疲れ様でした」

伊沢「申し訳ない、耐えられなかった」

星「ピックアップしてた？」

伊沢「フロントが全然食いつかないというか曲がらないのが

強かったね……」

タイヤが限界を迎えるまでは、8 号車のペースは決して悪くなかった。

スタートの混乱がなく 2 番グリッドから順調にレースを展開してい

れば、1-2 フィニッシュを飾った NSX-GT 勢と同じようにトップ争

いできていたはずだった。

鈴木亜久里総監督もそのことははっきりと認識している。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

ARTA



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



「スタートの出遅れがキツかったね。何とか挽回しようと思ったけど、最後までタイヤをもたせる」ことができなかった。色々なデータを取ることができたけど、このレースの結果を次に生かしたいね」  
エグゼクティブアドバイザーの土屋も、高木と同じようにシーズン全体を見てこの結果には合格点を与えた。「今日は4~6位くらいが我々が狙えるポジションだと思っていたので、予想通りの結果を得られて良かったと思う。もちろんもう少し上のポジションなら良かったけど、得意ではないサーキットということ考えると上出来だね。でも次は得意の富士なのでもっと良い結果にしたいね」



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**

2台ともに、結果は決して望んだとおりのものではなかった。

しかし速さはある。

そして結果を狙うアグレッシブさだけでなく、

シーズン全体を見て戦うクレバーさもある。

今年の ARTA はひと味もふた味も違う。

その片鱗は見えただけだ。

次の富士では、片鱗だけでなく目に見える結果へと繋げることが使命になる。



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI

**ARTA**



**AUTOBACS  
RACING  
TEAM  
AGURI**

**ARTA**  
AUTOBACS RACING TEAM AGURI  
**Project**



SHARK

SHARK

BRIDGESTONE

BRIDGESTONE

AUTOBACS

AUTOBACS

2

C

**ARTA**  
AUTOBACS RACING TEAM AGURI  
**Project**

mechanix.com

mecha K.com



**ARTA**  
AUTOBACS RACING TEAM AGURI  
**Project**





**ARTA**  
AUTOBACS RACING TEAM AGURI  
**Project**



**ARTA**  
AUTOBACS RACING TEAM AGURI  
**Project**



株式会社オートバックスセブン

# ARTA

THE "BIG RACE" FOR SUZUKI AGURI STARTED IN 1998  
AS HIS VISION FOR THE FUTURE. OVER THE YEARS, IT HAS EVOLVED  
THROUGH THE TOUGHNESS AND WILL OF ARTA. IN THAT SPIRIT,  
ARTA IS RACING TO INSPIRE THE FUTURE OF MOTORSPORTS.



ARTA Project



ARTA DIGITAL You tube チャンネル

To Be continued next race...

**ZERO**  
BORDER  
Team ZEROBORDER

©2018 ZEROBORDER INC. All rights reserved. No reproduction or republication

Director and Photographer : Masakazu MIYATA

Text : Mineoki Yoneya

Design : Hiroaki KATAYAMA

Special Thanks : AUTOBACS SEVEN CO., LTD